

## 第4回久留米市コミュニティ審議会 会議録要旨

- 日 時 平成24年6月19日(火) 9時30分～11時30分
- 場 所 久留米市市民活動サポートセンター 会議室
- 出席委員 古賀(倫)委員、満岡委員、溝口委員、竹村委員、下川委員、松田委員、有馬委員、井手委員、湊本委員、宇野委員、岡委員、中野委員、池田委員、佐藤(理)委員、今村委員、村井委員、吉丸委員、佐藤(光)委員、伊崎委員、岩寄委員、吉田委員(21名)
- 欠席委員 古賀(桃)委員、古賀(慶)委員、高山委員
- 次第及び議事内容
  - 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 第3回審議会について
      - ① 会議録(案)について
      - ② 会議録要旨(案)について  
《原案どおりです承》
    - (2) 校区コミュニティ組織と市民公益活動団体の協働推進について [1-(2)]
      - ① 答申骨子(案)について  
【主な質疑応答】
        - (委員) キラリ輝く市民活動活性化補助金は、事務的能力や企画力が要求されるので、補助金の申請を行う市民公益活動団体に対する支援が必要ではないか。[1-(2)]
        - (委員) 市や育成されたコーディネーターが、校区コミュニティ組織と市民公益活動団体を接近させ、話し合いの場をつくることが重要である。  
[1-(2)]
        - (委員) 校区コミュニティ組織と市民公益活動団体が互いに事業内容を理解し、補完しあい、利用しあいながら活動を行っていくことが大事である。  
[1-(2)]

- (委員) 自分が所属する市民公益活動団体では、総会に自治会長全員を招待し、活動面では校区コミュニティ組織の部会長や民生委員等との連携を大事にするなど、情報の共有化を重要視している。校区コミュニティ組織とは補完しあっている。[1-(2)、2-(1)]
- (委員) コーディネート機能として、団体相互をつなげるような「活動の発表の場」をつくったらどうか。[1-(2)]
- (委員) 市職員が地域の取組みの現状を知り、主導的な役割を担ってほしい。[1-(1)]
- (委員) 子どもが参加する活動があれば、若い保護者が地域活動を知る機会となる。[2-(3)]
- (委員) より多くの若い人の参加を得るためには、校区コミュニティセンターの環境等に工夫が必要である。[2-(3)]
- (会長) 答申案の作成にあたっては、校区コミュニティ組織と市民公益活動団体の理解の共有化については市民の理解も重要であることや、コーディネート機能についてしっかりと押さえ、また、支援制度については、具体的な取組みが見えるような表現を工夫したい。[1-(2)]
- (委員) 市民公益活動団体の活動発表の場を積極的に創り、市の広報紙等で発信していくと、地域住民にも理解が深まるのではないかと。[1-(2)]
- (委員) 校区で活動する場合は、情報交換や役割分担等に関してある程度のルールづくりが大事になってくるのではないかと。[1-(2)]
- (会長) 協働の手引書には、お互いに固有の役割を尊重することとなるような記載が必要であり、校区間の情報交換に資するような内容となるような工夫が必要である。[1-(2)]
- (委員) 校区コミュニティ組織の情報発信のツールとして、校区だよりを大いに活用している。[1-(2)、2-(1)]
- (委員) 校区コミュニティ組織間の情報共有のツールとしても、校区だよりはるかに活用している。[1-(2)、2-(1)]

**【市の広報紙に関して】**

- (会長) 市の広報紙で協働に関する記事を発信していくと有効である。
- (委員) 市の広報紙のページ数を増やすことを検討したらどうか。

4 その他

○次回委員会日程：7月24日（火）午前9時30分から